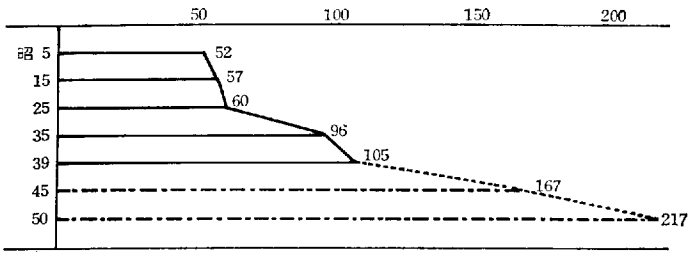
県の大部分の市町村は、多少の差はあるが、減少傾向を示している。20%以上減じた町村は、只見町、金山町、好間村、田人村の4町村であるが、産業開発事業の終了や地域産業の衰微に原因しているものと考えられる。

第10図　産業近代化率の推移

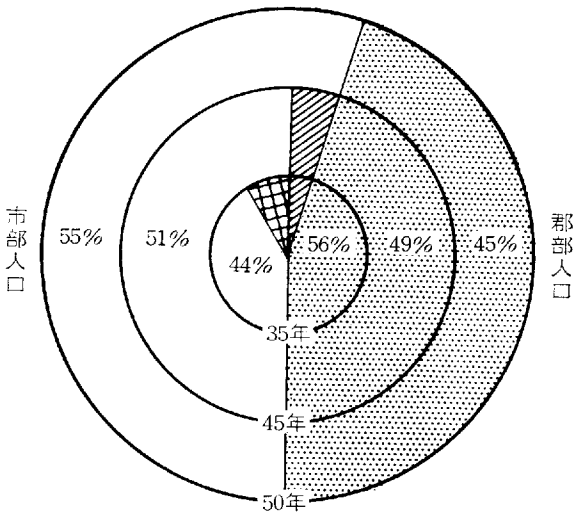


$$産業近代化率=\frac{第2次産業+第3次産業}{第1次産業就業人口}$$

第10図は、本県産業近代率の推移を示したものであるが、これとの対比において第8図、第9図をみると、産業近代化の進行とともに、産業間、地域間の人口移動があったことがうかがわれる。

県勢興計画によれば、第10図に見るとおり、昭和45年の産業近代化率は167、昭和50年においては217となり、いままで経験したことのない激変がすすめられることになる。したがって、今後は、農村地帯からの離農者の増加、二次、三次産業就業者の増加が、大巾にすすむものと予測され、二、三次産業の集中している都市への人口集中傾向は、さらにつよまろう。

第11図　県勢振興計画の計画人口による市部郡部人口の構成比率



この結果、郡部人口減少傾向はつよくなり、計画によれば、第11図に見るとおり郡部人口は、昭和50年には45%に減少するものと見込まれる。

人口の産業間、地域間移動の激化は、本県社会の政治、経済、文化さらには、個人の生活はもちろん、その家族生活、地域社会にも大きな変化を求めることになると予想される。

郡部においては、農家人口の流出、転職などを中心に、市部や市部近郊では、人口集中を中心とする問題が予想され、教育機関の再編なども必要になろう。

3　変化する年齢構成

出生率、死亡率の減少傾向についてはすでにみたところであるが、この傾向は平均余命の延長という結果をもたらした。このために本県人口の年齢別構成をもかわることが予想される。